



■作者名/村上 美智子・作品名/「夢のもつれ」・サイズ/縦116cm×横91cm

AWA ONNA AKINDO JUKU Vol.5 1998

編集・発行/AWAおんなあきんど塾・徳島市 ■お問い合わせ先/徳島市商工課 徳島市幸町2丁目5 Tel:0896-21-5225・5226 Fax:0896-21-5196 ■デザイン/（株）アワード

AWA

awa onna akindo juku
おんなあきんど塾

阿波丸
あきんど

AWA ONNA AKINDO JUKU

1998 第5号

起業家を育てる誌上「メンタ講座」講演から・会場の声／とくしまってこんなまち・データからみた徳島Ⅱ／経済と文化の融合

起業家を育てる

誌上メンター講座

私たちが起業家の創出に取り組んでいて感じるのは、「起業に関心のあるひとの多いこと」です。

しかし、せっかくのこの芽も、企業という木や花に育つためには“養分”が不可欠で、私たちは、起業の成否をも左右するその養分を提供してくれる人たちの存在が、きわめて大きいことを痛感しているところです。

そこで、先般、起業家を支援するメンター（起業家支援者）の必要性や、定義、実践事例などを体系的に学ぶ講座を開設しました。

今号は、(株)アントレプレナーセンター代表取締役福島正伸講師の講演内容を抜粋で。

はじめに

今日は「メンター」ということで、お話をさせていただきたいと思っておりますが、実は大変うれいんですが、この「メンター」という概念を広めようと始めて、もう4年か5年ぐらい経つんですけども、なかなかこの「メンター」という概念が広まらないんですね。大変難しい概念かもしれないんですけども、簡単に言うと「お互いが励まし合う」、そういう社会をつくりたいということなんです。

ただ、「励まし合う」というのは、どうも日本の今までの風土になかなか合わない。「自分が成功するには」という、それが先に行ってしまうということがありまして、なかなか「励まし合う」ということが風土に合わないんだなあというふうに感じました。

今、よく商工会議所とか青年会議所とか、いろんなところで講演させていただくんですが、「青年会議所の人たちが全員成功する方法がありますよ」とよくお話をします。

それは、自分が成功することを考えないことです。他の人が成功するために自分が何ができるかを考えることです。そうすると、自分1人で考えてたものが、いきなり青年会議所8万人ですか、9万人ですかの人が自分のことを考えてくれる。今度は自分

が周りの人のことを考えていく。いくらでもアイデアでも、情報でもネットワークでも、勝手に自分に集まってくるんですよ。簡単なんです。

社会が成功するというのは、自分のことよりも他人のことを考える人たちがいる社会—これは必ず成功すると思うんですね。というのは、自分にない力を他人が与えてくれるからなんですね。もちろん、自分がやることはやらなきゃいけませんけども。

そういった意味では、メンター的な概念というのを、ぜひこの社会に伝えていきたいということで、あちこち動きまわってましたら、たまたま今日はこういう機会をいただきまして大変感謝しております。

メンターの語源

「メンターとはなんぞや?」というところからお話を少しずつしていきたいと思えます。日本語の辞書では「精神的支援者」というような訳し方をされてまして、大学の先生なんか何人かがやっとなら研究を始めたばかりなんですけれども、ただ、古くは、いろいろ調べていきますと、ギリシア語に「メンター」という同じスペルでそういう概念があるんですね。この概念はどういう概念かというと、「人間的指導者」という意味があるようです。「全人格的指導者」とかね。

昔のギリシア哲学っていうのは、

「人間がいかに生きべきか」とか「人間が幸せに生きるには」「生きるとは何か」、これが学問の走りだったわけですね。一番最初に学問をつくった人たちが道角やなんかでいろんな人たちにスピーチしてたんですね。その人たちが、いろんな人の個別の相談にも乗ったんですね。で、それを「メンター」というふうに使われてたんですね。

メンターとの出会いは成功の条件

この「メンター」という言葉は、結構以前からあることはあったんです。ただ、使われるようになったのは、アメリカでもここ14、5年前からなんですね。で、特にこの4、5年、積極的にこの言葉が使われるようになってきました。で、その背景にあるのは何かというと、成功した起業家の人たちがこのメンターの存在をアピールしたからなんですね。なんと、ここ何年間か、どこの雑誌の調査でも、アメリカの起業の成功者に聞きますと、「あなたが成功した理由は何ですか」の第1位は、必ずメンターですね。必ず「メンターと出会ったこと」というのが第1位になります。私なんかよくアメリカに行くんですけども、向こうで「君がここまで来られたのは」と言うのと、「私にメンターがいるからだ」と。

日本でも、東京商工会議所というのが、一昨年、中小企業庁委託調査



講師：福島 正伸氏

■プロフィール
福島正伸先生は、39歳。早稲田大学法学部卒。
(社)ニュービジネス協議会「第一回ニュービジネス大賞人材育成賞」受賞、通産省産業構造審議会委員をはじめ各省委員を務める。
岩手県「いわて起業家大学」をはじめ各自治体開催セミナー講師ほか。
著書に「会社の元氣はメンターがつくる」「起業家精神～不可能を可能にするバイブル」ほか。

MENTOR

で、成功したといわれる起業家の人たちからアンケートを取ったんです。これはおもしろいアンケートですね。ちょっといろんな意味があるんですがね。まず、「成功する前にあなたが一番悩んできたことは何ですか」。第1位、「資金繰り」なんですね。お金の問題。第2位、「人の問題」。優秀な人が来ない。第3位、「売り上げの問題」です。いいものが売れないんです。流通ルートが、なかなかベンチャー企業の場合は、開拓が難しいんですね。ところが、おもしろいことに、成功した人たちに「あなたはなぜ成功したんですか」と聞くと、第1位が「家族の支援」なんですよ。第2位が「友人知人の応援・支援」なんですよ。第3位が「狙ったマーケットが良かった」なんですよ。なんと、最初に言った3つの問題が解決したという経営者はいないんです。つまり、成功する前に悩むことと、成功した人たちが言ってる成功要因とは違うんですね。

なぜメンターが必要か

私たちって、常に安楽に流されちゃうんですよ。もう1つ、充実したいという人生。2つの欲求を持つてるんです。大きく分けると。「安楽の欲求」と我々と呼んでますけれどもね、「いかに楽して生きていくか」。もう1つは「いかに充実した人生を送るか」。2つ欲求を持つてるんです。どっちかだけじゃダメなんですよ。特に「安楽」をいくら満たしてもダメなんで

す。何か物足りないんですよ。何がないんだと思ったら、充実感がないんですよ。

じゃあ、充実感はどうしたら得られるか。「あの時は充実してたなあ」という時のことをちょっと思い出して下さい。必ずこういう時ですよ。苦労してた時。苦労が充実になるんです。つまり、安楽と正反対なんです。

そして、いかに「充実した人生を送ろう」と、そういう欲求に基づいて考え、行動するか。「じゃあ、そうすればいいじゃないか」と言っただけで、なかなかできないんです。「安楽」の方が強いんです。私たちは「自分が楽して得する」という基本的欲求の方が、圧倒的に強いんですね。で、そっちに流されてしまうんです。

私どものメインの仕事は大企業の研修なんですけど、昨日も某大手の7万人という会社の講演会をやってきました。昨日も言ったんです。「なぜこの会社の業績が悪くなったんですか」と。「人脈はある、お金はある、実績はある、信用はある。すべての経営資源があって、極楽の蓮を5枚ぐらいい敷いて、その上にふんぞり返って、『あと1枚足りない』と文句を言っているだけじゃないか」と。で、1枚あげると、「いや、蓮が腐った」とか、また訳の分からないことを言ってくる。ベンチャー企業なんか見て下さい。

信用はない、金はない、実績はない。何もなし。じゃあ、どうして成功することがあるんですか。それは、もうその人の姿勢の問題と考えるを得ないんです。

つまり、どれだけ経営資源があるかとか、どれだけ恵まれた環境にいるか、人、もの、金、システム、情報、時間、経営資源があるかないかとかに関係ない次元がもう1つあ

るんです。それがまさに「姿勢」の問題なんです。

で、なぜメンターが必要か。簡単に言えば、一生懸命やる、そしてその一生懸命やる人を励ます、この関係ができていくかできていないかだけだということに私どもも行き着いたわけです。

それで、相手を励まし、相手の能力・可能性を最大限に発揮させる—そういう支援ができる人のことを「メンター」と言っています。

「メンター」という概念は、人間がお互いに励まし合うことによって、そうして私たちは、ますます生産性を上げることができる。つまりどちらかというと、「人間とは何か」みたいなところから考えている概念なんですね。いかに利益を上げるか—それは、一人ひとりが自発的にどんなこともあきらめずに、どんな問題も乗り越えていく、そういう人たちが集まった集団である、ということだということになるわけです。

メンターのキーワード

さて、それでは、メンターの概念をもう少し詳しくお話していきましょう。メンターにはキーワードがあります。どういうキーワードがあるかというのと、3つあります。

・姿勢
自らの姿勢で重要なことがいくつかあるんですが、まず最初は、ものごとを常にプラス受信することができるように自分になっておかないといけない。プラス受信というのは何かというと「ものごとを客観的、好意的、機会的に受け止める」と我々は言ってるんですが、チャンスとして受け止めるということなんです。「客観的」というのは、その場の感情に流されない。「好意的」というのは、好意を持って接する。「機会的」というのは、チャンスだ。

そして、当然のことながら、自律型である。「自律型」というのは、どんな状況の中でも、今できることを全力でやっているということなんです。その人自身が。私たちが一番励まされるのって、そういう人の存在なん



ですよ。

オリンピック選手を見て、私たちは励まされてしまうんです、それだけで。彼らは、全力で、4年に1回しかないオリンピックに出るために、約束もされていないメダルを取るために、1日1日を大事に生きてきたんです。そして、あのオリンピックという舞台に立つ。彼らの姿を見るだけで、私たちは何か勇気づけられるんですよ。最高のメンターというのは、言葉ではないんです。姿勢で示すんです。その人の存在そのものが、周りの勇気になる—これが究極のメンターです。何も、ああ言った、こう言った、そういうことじゃないんです。

例えば、その究極は何かというと、長嶋茂雄さんと僕は言ってます。あの人は教えるのは下手。何を言ってるのか分からない。でも、あの人がいるだけで、周りが元気になる。つまり、その人の生きざまなんです。それが、最高の指導法なんです。

・信頼

それから、次に「信頼」というのがあります。「信頼」というのは何か。これは難しいですよ。もう1つ、「期待」というのがあるんです。これは、似て非なるものですから、明確に意味を使い分けています、私たち。どういうふうに使っているかというと、「期待」と「信頼」の1番の違いは何かというと、裏切られることが前提にあるかないかなんですよ。「期待」というのは、裏切られることが前提にない場合。つまり、裏切られたら怒る、頭にくる。つまり、「期待」というのは、思い通りに相手を動かそうとすることなんです。ところが「信頼」というのは、裏切られることが前提にある。裏切られても、また信頼する。何度でもあきらめない。「信頼」と「期待」というのは、そこが根本的に違うんです。

・支援

もう1つ最後に、「支援」。支援というのは、いろんな支援の仕方があります。特に、メンターの場合は、物的支援ではなくて、精神的支援が重要です。物的支援は、また別です。その最大は何かというと、励ますこ



とです。

メンターの指導の注意

メンターのキーワードとして3つを申し上げましたが、それじゃあメンター的に指導をする時に、どういうことに注意をしたらいいか、というお話を若干します。

・アイ・ステイトメント

相手に何かを伝える時に、相手が最も受け入れやすい伝え方というのがあります。ちょっと手法上のお話をいくつかしますね。それは、どういう言い方かという、「アイ・ステイトメント」という言い方があるんです。これは何かというと、「1人称主語表現」と言うんですが、「私ならばこう思います」「私ならばこうします」という伝え方。相手に選択権を委ねる伝え方なんです。「呈示」と言うんです。そして相手に選ばせる。常に主体者は相手である。「自分は応援者である」というスタンスですからね。その時に、相手に一番抵抗無く受け入れる言い方が、「1人称主語」。「アイ・ステイトメント」という言い方で伝えるということがあります。これを「呈示」と言います。

・リスナー

それから、「リスナー」という方法があります。相手が悩んでいる時、特に起業家が悩んでいる時とかに、どうやってその問題を解決するかという時に、正解を言うことが、こっちが正解だと思ってることを言うことが、解決策にはならないんですよ。もっと重要なことがあるんです。相手が自発的にそれをやるように、その手法を選択するようになることの方が重要なんです。聞きながら、相手に回答を見つけたさせるやり方なんです。例えば、悩んでいる人がいる。または、分かってない人がいる。特にひどいのになりますと、「俺はヒト

ラーだ」と思い込んでる人がいるわけですよ。「君はヒトラーじゃないよ」と言っても、「何を言ってるんだ。俺はヒトラーだ」と言い返されるに決まってるんですよ、思い込んでるわけですから。つまり、これ、議論にならないんですよ。どうしたらいいか。話を聞いてあげればいいんです。

「ヒトラーはどこの国の人だい?」「ドイツの英雄だ」とか言うかもしれない。「何をしたんだい?」「雇用問題を解決した。戦争も強いんだ」と言うかもしれません。「じゃあ、君はどこで生まれたんだい?」「俺は四国の徳島だ」「ん?話が合わない」。

こんなにすんなりうまくはいきませんよ。つまり、頭の中を整理して、問題を整理するすればするほど解決策を見出しやすくなるんです。間違いに気付くんです。その一番いい方法は、相手に話をさせることなんです。

・視点

あと、アドバイスをする時に、メンターの重要な要素として、「何のために事業をやるのか」という視点から常にアドバイスをしてあげていただきたいんです。そのアドバイスのポイント—それは、「全体的」「根本的」「多角的」(多面的とも言いますが)「長期的」。

だいたい、人が悩んでいる時って、常に目先の出来事で悩んでしまってるんです。それに対して、どういう視点で考えたらいいかという時に、「何のために事業をやっているのか」「何を目標しているのか」「損得ではなくて、善悪で考える」とも我々は言っています。そういう視点からのアドバイスをしてあげないとダメなんです。「いや、そうやったら損だね」「こうやったら得だね」—そういう次元ではない。「何のために」「何を目標しているのか」という視点から、常にものを考えていく姿勢で接してあげてほしいんです。

・究極は

そして、究極は、私たちが言うことは、ちょっと分かりづらい言葉かもしれませんが、「困ることを楽しめたら勝ち」なんです。「うまくいかないことを楽しめたら勝ち」

なんです。これは、どういうことかということ、うまくいくこととか売り上げを目的にしている会社って、結構ニセモノの会社ができるんですよ。例えば、接待だ、ワイロだ。そんなことやって、世の中に本当に必要な会社じゃなかったら、必ずダメになるんです、その会社はいずれ。一時的に売り上げが上がったって。つまり、本物・一流になって、そしてお客様に価値、感動を与えられる会社をつくらないといけないんです。ということは、「いかに楽しんで得とれ」という発想ではなくて、本物・一流であり続ける努力をし続ける。それで、結果は、お客様が勝手に評価をしてくださる、という考え方なんです。ということは、評価が低いのは、まだ努力が足りないからなんだと。常に、改善、向上をし続ける、それを、まさに充実感に変えていくんですね。充実感というのは、努力し続けることによって得られるものです。

だいたい、世の中には2つうまくいかないことがあるんです。それはものごとと人間関係なんです。経営者はいつも悩んでる。それを楽しめたら、もうおそらくその経営者は成功しているはずですよ。逃げませんから。努力し続けますから。それがこの指導の究極の境地なんです。

いずれにしても、私たちは「お互いに支援しあう」という社会を最後つくっていきたくと思っています。

取り急ぎですが「メンターとは何ぞや」として「それがどういう役割になるのか」についてご紹介させていただきます。

あなたもメンターしませんか?

AWAおんなあきんど塾と一緒にメンター活動してみよう、と思われの方は、あきんど塾メンバーまたは徳島市商工課TEL.21-5225 FAX.21-5196へ。お問い合わせもどんどんお願いします。なお、あきんど塾では近々メンターのネットワークをつくることを考えています。メンター活動は起業家輩出のための要因のひとつですが、と同時に企業者としての成長やネットワーク形成にも、大いに役立つものと思います。組織、団体、個人を問いません。ぜひみんなでご参加ください。

会場の声

負けずくじけず 人間関係を開いた

ティー・アイ・シー(有) 代表取締役 青山 恭久



私は、今年で25になるんですけども、会社を設立したのが22歳の年だったんです。ちょうど今年で3年目ということなんですけども、やはり「自分だけではまずできない」ということに気がきました。たくさんの方々からのご支援なり、またニュービジネス協議会のすばらしい会員の皆様方から、いろんな流通経路からマーケティングから、たくさんの方の力を教えていただいた。やはり一番気にかかる場所というのは、先ほど先生のお話にもありましたように、資金的なものです。

けれどもその前の段階に考えたのは「人間関係」でしたね。特に、私なんかどこへ行っても、やはり若いということ、どうしても話を聞いてくれない。ところが、今日の先生のお話にもあったように、負けずというか、くじけずにそこにおち当たっていきたくところから、まず1つ自分の道が開けた。そこで、結局、話を聞いていただいた。話を聞いていただいた方から、かなりの支援なり協力を得てきたというところですね。今もなお、お付き合いがあります。

励まし、助け合う “風土”づくりを痛感

(株)川建設 代表取締役 川端 壮一郎



AWAおんなあきんど塾の活動に興味があり、また「メンターって何だろう」と思い、セミナーに参加しました。

講師のお話を聞くうちに、人間が生きていくのにも、事業を成功に導くにも「指導者」が自分のまわりに居ることが大切であり、お互いが励まし合う、助け合う風土づくりが必要なのだと痛感しました。

アメリカでは、起業家のみならずスポーツ界なども、メンターの存在は不可欠な条件とか。

先進国を参考にしながら、徳島にも福島方式のすばらしい起業家サポートのシステムが誕生することを期待しています。

私も、これを機に、多くの人と語り合うことから始めて、皆さんの活動にも協力できればと思っています。

起業家育ては自分育て

角元産業(株) 取締役経理部長 角元 昭子



起業家の育成に、メンター制度は欠かせない重要要件です。各自が自分自身の発想と情熱で事業に取り組み、利益を生み出すには、先輩あるいは後援者の応援があれば、より力を発揮できることと思います。

メンターたる条件として、私は、度量が大きく、人間が魅力に富み、何よりも起業家が尊敬できる事業家がいれば最高だと思います。

わがAWAおんなあきんど塾のメンバーも、メンターの末席を占めるべく努力しておりますが、起業家育て、すなわち自分育てであると痛感しています。自分が熱心に勉強し、徳を積み、事業を成長させる人であることが、よりよいメンターへの条件だろうと思います。起業家育ては、社員育てと基本は同じとも思っています。

すばらしい起業家とメンターが育つということは、相乗効果ですばらしい事業家が育つことだと思います。

あきんど塾にかかわる方々が、利益創出を通じて、自律的に育つ場になればとメンバー一同願っております。

徳島ってこんなまち データからみた徳島 II

ビジネスで成功するためには、時流に敏感に一。

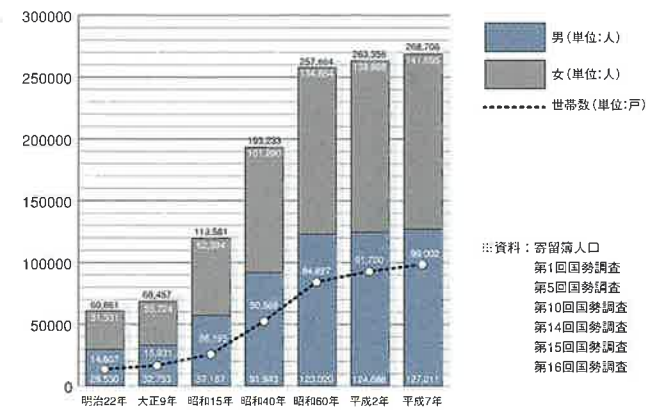
つまり、しっかりと自身のアンテナを持ちましょう、ということ。

本誌では、地域のひとつの情報として、前号で徳島の経済概況や人口、全国ランキング5位までの特色などを掲載しました。

今号も、第2弾として、気象、健康、福祉、教育などのデータでわがまち徳島のプロフィールをどうぞ。

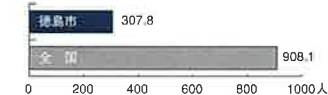
★人口と世帯

・変遷

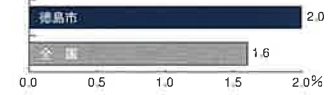


・人口

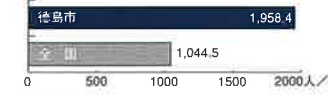
・外国人人口 (人口10万人当)



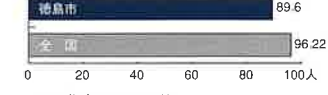
・人口増加率



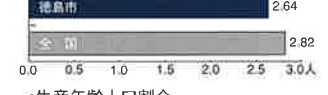
・人口密度 (可住地面積1km当)



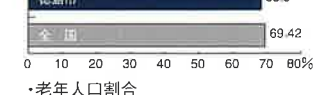
・人口性比 (女性100人につき男性)



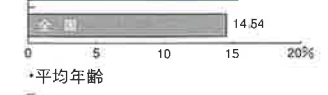
・1世帯当たり人員数



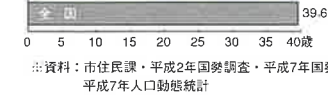
・生産年齢人口割合



・老年人口割合



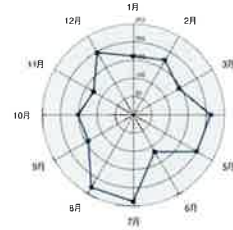
・平均年齢



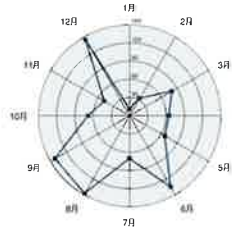
※資料：市住民課・平成2年国勢調査・平成7年国勢調査・平成8年県人口移動調査
平成7年人口動態統計

★気象概況

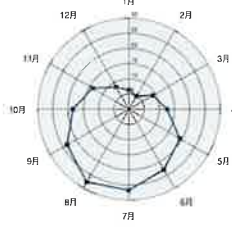
・月別日照時間 (単位:時間)



・月別降水量 (単位:mm)



・月別平均気温 (単位:°C)



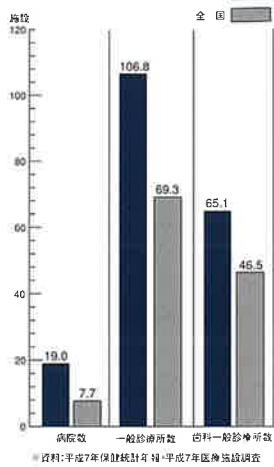
男(単位:人)
女(単位:人)
世帯数(単位:戸)

※資料：寄留人口
第4回国勢調査
第5回国勢調査
第10回国勢調査
第14回国勢調査
第15回国勢調査
第16回国勢調査

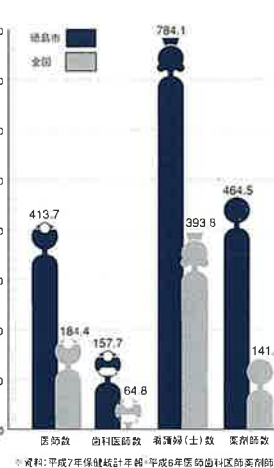
★健康と福祉

・医療

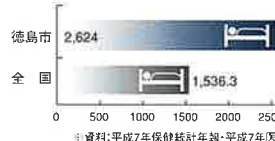
・病院・一般診療所・歯科一般診療所数 (人口10万人当)



・医師・歯科医師・看護婦(士)薬剤師数 (人口10万人当)



・病院・一般診療所病床数 (人口10万人当)

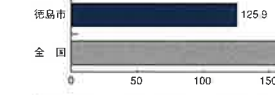


・国民健康保険医療費費用額 (被保険者1人当)

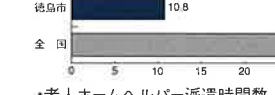


★福祉

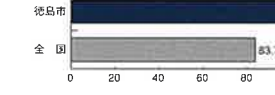
・老人ホーム定員数 (65歳以上1万人当)



・老人ショートステイ利用日数 (65歳以上100人当)

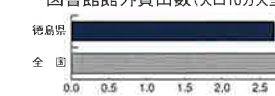


・老人ホームヘルパー派遣時間数 (65歳以上100人当)

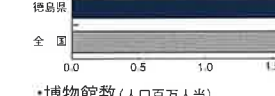


★文化・スポーツ・レジャー

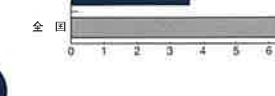
・図書館外貸出数 (人口10万人当)



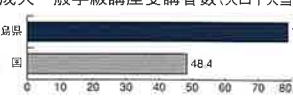
・図書館蔵書数 (人口1万人当)



・博物館数 (人口百万人当)



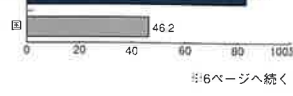
・成人一般学級講座受講者数 (人口千人当)



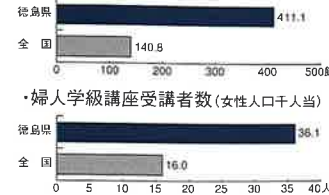
・高齢者学級講座受講者数 (人口千人当)



・社会体育施設数 (人口10万人当)



★公民館数 (人口百万人当)

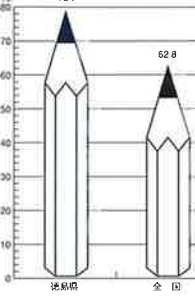


★常設映画館数 (人口百万人当)

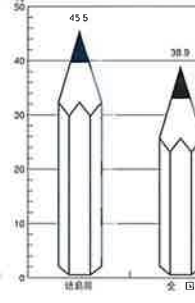


★教育

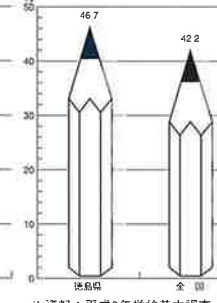
・幼稚園就園率



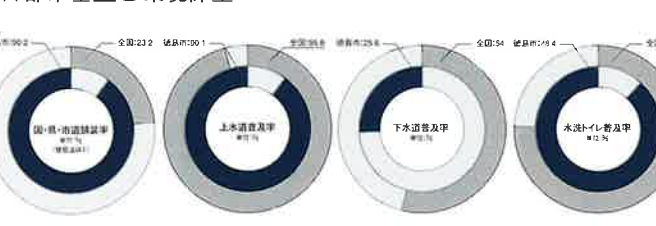
・大学・短大への進学率



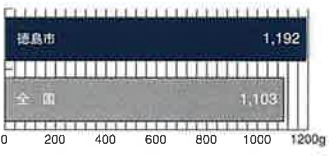
・県内大学・短大入学者における自県出身者の占める割合



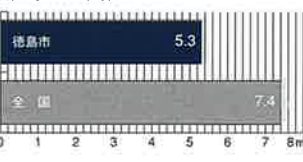
★都市基盤と環境保全



・ゴミ排出量 (人口1人1日当)



・都市公園面積



※資料：平成8年道路現況調査・平成8年県生活衛生課・市保全課・平成7年日本の下水道・平成5年住宅統計
平成8年市生活環境課・平成5年日本の廃棄物処理・平成7年市公園緑地課・平成7年都市緑化年報

経済と文化の融合

村上 美智子さん

本シリーズ今回は、平成10年3月に徳島市西大工町のギャラリー・ウェイックアップで洋画の個展を開催、プロの画家を目指し、ただいま「腕と心」に磨きをかけている京都出身の村上美智子さん(29)＝徳島市北田宮2丁目＝の登場です。

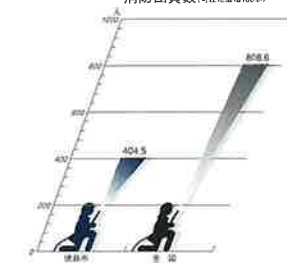
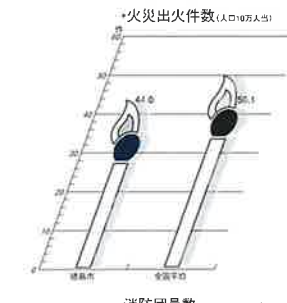
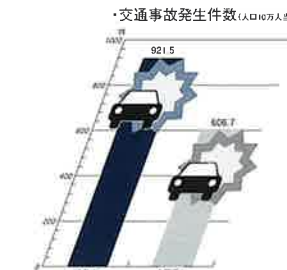
一成安女子短大造形芸術科染織コースを卒業されて、徳島の方と結婚しこちらに来られたのですが、徳島はいかがですか。
村上 自然がいっぱいで、アウトドアで楽しむことが多くなりました。
—そんな体験から、今回の「自然」な感じのテーマとなったのですか。



村上 自然と一体化するなかで生命の歴史を感じ、その「エレメンツ」を探っていきかけたのです。
—花も、花びらがやわらかそうですね。

●AWAおんなあきんど塾/稲実房子、植田貴世子、岡部恭子、角元昭子、河野世津子、佐藤公子、高畑富士子、中山律子、米川慶子、和田玲子

★災害と防災



★市の財政

	徳島市	全国
財政力指数	0.82749	0.49423
公債費比率	14.4%	11.2%
経常収支比率	86.1%	87.4%
普通会計決算額 (人口1人当)	324千円	805.4千円
自主財源割合	62.1%	50.2%
一般財源割合	57.5%	48.6%
投資的経費割合	21.6%	32.7%
市民(住民)税負担額(人口1人当)	69,316円	103,500円

interview

村上 自分が描きながら、花びらになりたい、美しいものになりたいと思い、描いている時は苦しいのですが、やがて仕上がったものをじっと見ていると癒されるのです。見てくださる人も癒されてほしいと思います。

◇ ◇
まだまだ未知数の村上さん。でも、目がキラキラとして、自然への思いが作品や言葉の端々から伝わって来る彼女。そして何より絵の「色」一。
未来のプロへのエールに替えてのインタビューでした。

●インタビュアー
AWAおんなあきんど塾機関誌編集委員長
河野 世津子